

平成27年度から森林整備活動を開始した民間団体の記録

頁	民間団体	活動場所		関係局・署	
		県	市町村	森林管理局	森林管理署
1	カワイの森育成会	宮城県	東松島市	東北局	宮城北部署
		宮城県	仙台市	東北局	仙台署
6	国土防災技術株式会社 東北支社	宮城県	東松島市	東北局	宮城北部署
10	名古屋みなとロータリークラブ	宮城県	東松島市	東北局	宮城北部署

注:カワイの森育成会においては、平成27年度から宮城県東松島市で活動を開始し、平成28年度から東松島市で、平成29年度から宮城県仙台市でもそれぞれ活動している。

団体名 カワイの森育成会
社会貢献の森の名称 カワイの森
活動目標 海外防災林の復旧を通じて、ボランティア活動の意義、団体活動の楽しさ、植林活動・樹木の重要性を改めて認識する。
活動年度 ①平成27年度～ ②平成28年度～ ③平成29年度～
植栽地区の概要 箇所：①宮城県東松島市大曲字新堀向国有林546林班チ小班 ②宮城県東松島市牛網字大浮足国有林548林班い2小班 ③宮城県仙台市若林区荒浜字田ノ神国有林88林班ハ2小班ほか 年度：①平成27年度、②平成28年度、③平成29年度 面積：①0.10ha、②0.10ha、③0.14ha 樹種：抵抗性クロマツ（①500本、②500本、③700本）
活動概要 東日本大震災が発生した当初は、楽器の寄付をしていましたが、他に出来ることはないか検討して、チャリティーコンサートの開催とその寄付金により本活動に参加しました。 弊社現地の体育教室、音楽教室の生徒さん及びご父兄に参加いただき、カワイのスタッフのアシストのもと、植林を実施しました。 年に数回、清掃と草刈りの手入れを行い、植栽木の育成保護に努めて参りました。 現在、事務局が植栽木の成長を見守っています。

1. 活動への感想

音楽教室、体育教室の生徒さん、ご父兄に参加（2年目も連続して参加いただいた御家族もあり）いただいたので、地元の復興について関心が強かったです。

クロマツが大きく育って、また元の海岸防災林以上になってくれることを強く願っています。事務局としても、そのような方々の応援ができて良かったと思います。

2. 活動にあたっての工夫

チラシを作成して、できるだけ多くの生徒さんに配布しました。活動については、地元の森林管理署、森林組合、森林インストラクター協会に非常にお世話になりました。

また、植林終了後にクラフト教室を開催しました。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

地元と協力して、木の成長を見守っています。年一回は現地を訪れ、下刈も実施しています。

4. 海岸防災林への期待

先ずは、成林していくことを見守っていきますが、長いスパンの話なので、継続内容は検討中です。

5. 活動状況①東松島市大曲（平成27年度植栽）

 <p>カワイの森の看板</p>	 <p>記念写真</p>
 <p>植栽初年度（平成27年、クロマツ）</p>	 <p>植栽4年後（令和元年、クロマツ）</p>
 <p>啓発ポスター掲示</p>	 <p>親子植栽</p>

活動状況②東松島市牛網（平成28年度植栽）



カワイの森の看板



記念写真



植栽初年度（平成28年、クロマツ）



植栽3年後（令和元年、クロマツ）



植林の様子



クラフト教室

活動状況③仙台市若林区荒浜（平成29年度植栽）



カワイの森の看板



記念写真



植栽初年度（平成29年、クロマツ）



植栽3年後（平成30年、クロマツ）



植林の様子



クラフト配布

団体名	国土防災技術株式会社 東北支社
社会貢献の森の名称	JCE希望の森
活動目標	<p>弊社では、活動の実施にあたり、社内公募により「JCE 希望の森」と命名しました。東日本大震災からの復興に関わる会社として、今後は社会貢献の森に参加すること、海岸防災林の機能を早期に高めるための植栽、保育に参画し、より一層の社会貢献を図ることを活動目標としています。</p>
活動年度	平成 27 年度～
植栽地区の概要	<p>箇所：宮城県東松島市大曲字新堀向国有林 546 林班子、リ小班 年度：平成 27 年度 面積：0.15ha 樹種：抵抗性クロマツ（650 本）</p>
活動概要	<p>弊社では、2011（平成 23）年東北地方太平洋沖地震に誘発された津波により被災した海岸防災林の再構築に向けた業務を受注・実行してまいりました。</p> <p>受注業務のみによることなく、東日本大震災からの復興に関わる国土防災技術として、より一層の貢献を図るとともに、この活動を通じて、海岸防災林を育成することはもちろん、緑化技術、海岸防災林の実状などについて社員が広く学習、体験することに加え、普段と異なる環境に身をおくことも貴重な体験になると考え、毎年 2 回の活動を実施しております。</p>

1. 活動への感想

海岸へのクロマツの植栽は、かつては飛砂との戦いだったのだと思います。しかし、活動の対象地では雨水との戦いとなっている点で新しい課題に取り組んでいるのだと思いました。植栽から2年目、3年目の頃は、排水不良で枯死してしまうのではないかと揉んだのですが、ここ1、2年で多少改善してきたようです。土壌環境が経年的に変化してきているのだろうと思いました。

そのようなことを考えるにつけ、森林づくりは短気をおこさず、長い目で取り組んでいかななくてはならないという思いを新たにしました。

2. 活動にあたっての工夫

植栽にあたり、植穴の掘削深さ、土壌改良材の有無など、いくつかのパターンを試してみました。活動場所の生育基盤の問題としては地表水のはげが悪く、表土が湿潤状態になることなのですが、植穴を深くして黒曜石パーライトで改良すると活着率が向上して成長も見込めそうなことがわかりました。

通常の植栽方法の場所では、補植や改植が必要ではないかと心配しましたが、クロマツ自体や下草類の根系発達の効果もあり、枯死したかに見えた苗木が息を吹き返している状況です。そのため、今は様子を見守ることにしています。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

(1) 抱負：活着したクロマツの樹高が3.5m~4mに達し、初回の本数調整伐を迎えるまでは見守っていきたいと考えています。

(2) 活動予定：弊社の活動場所は背の高いヨシの生育が顕著ですから、クロマツがその高さをクリアするまでは下刈りを中心に活動を継続する予定です。

4. 海岸防災林への期待

防風や防潮といった防災面の機能だけではなく、人々のレクリエーションや動植物の生息場所など、海辺の森として育ってくれればと思います。また、将来的にどのような形になるのか良くわかりませんが、地域の皆さんや都市部からの来訪者が様々な活動や交流のできる活動拠点としての機能にも期待できるのかなと思っています。

5. 活動状況



希望の森

かつて仙台湾一帯は、海風が吹き込む沼や湿地帯が広がる原野で、換気も大津波の被害を受け多くの生命と生活が犠牲となった不毛地帯でもあります。仙台湾を開いた伊達政宗が、こうした土地を開発する手がかりとして遠州（静岡県）からクロマツの種を取り寄せ、津除須賀松林の造成に着手したとされます。江戸時代から400年以上にわたり、多くの先人達や地域住民の並々ならない苦心と努力により育て、そして引き継がれてきた海岸砂防林ですが、これまで経験したことのない巨大な地震による大津波にのみ込まれ、ほとんどの海岸林は破壊・流失してしまいました。


海岸林の再生に向けて、平成27年にやっと植栽に取りかかりましたが、クロマツが生長するには長い年月と人の手による保育が必要となります。

私たちは、クロマツが成長し一日も早く防災機能を発揮できることを祈念して、今後の「JCE希望の森」での保全活動に取り組んでいきたいと考えています。


国土防災技術株式会社
JCE Construction Co., Ltd.



②看板設置の様子
(H27年11月6日)



③植栽初年度 (H27年5月28日)
樹種：抵抗性クロマツ



④苗木成長写真 (R元年6月27日)
樹種：抵抗性クロマツ



⑤植栽初年度 (H27年5月28日)
植栽作業状況



⑥植栽初年度 (H27年5月28日)
植栽木の前で集合写真



⑦作業実施後の集合写真
(H27年11月6日)



⑧作業実施後の集合写真
(H28年12月27日)



⑨植栽3年後 (H29年11月17日)
(下草刈り実施後)



⑩植栽5年後 (R1年6月2日)
植栽木の前での集合写真



⑪下刈り作業状況
(R1年6月27日)



⑫下草刈り作業状況
(R1年12月20日)

団体名	名古屋みなとロータリークラブ
社会貢献の森の名称	みなと友愛の森
活動目標	<p>海岸防災林の再生活動を通じて、東日本大震災で被災された地域の復興を支援していきたい。</p>
活動年度	平成27年度～令和元年度
植栽地区の概要	<p>箇所：宮城県東松島市大曲字新堀向国有林546林班子小班</p> <p>年度：平成27年度</p> <p>面積：0.34ha</p> <p>樹種：抵抗性クロマツ（1,750本）</p>
活動概要	<p>当クラブの社会奉仕活動、青少年奉仕活動として、東日本大震災の復興支援に参画するため、海岸防災林の再生事業への参加を希望しました。</p>

1. 活動への感想

実際に現地へ赴き、大震災の傷痕の深さを目の当たりにしながらも、未来に向かって形として残るクロマツの苗の植栽事業は、大変意義深いものでした。

固い地盤に穴を掘り1本ずつ苗木を固定していく作業は、想像していた以上に根気と体力を必要とする作業ではありましたが、参加者全員の思いが通じたのか、快晴の天候に恵まれ、ブルーインパルスの訓練飛行にも勇気づけられて無事に1,750本の植栽を完了しました。

その後、毎年定期的に現地で生育状況を観察しましたが、順調に生育している苗木の姿に、毎回こちらが勇気づけられました。

数多くの方にご協力いただき、参加させていただいた本事業は、当クラブの歴史に残る、非常に有意義な体験となりました。あらためてお世話になりましたすべての皆様に、心から感謝を申し上げます。

2. 活動にあたっての工夫

植栽終了後は、ほぼ毎年2回地元の業者に依頼して除草作業を行いました。その為、他地域に比べ苗木の成長も順調でした。

また、年に1度は現地へ赴いて現況の確認を行いました。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

本箇所における植栽木が成長し、保育等の活動をする必要がなくなり初期の目的が達成されたため、協定期間の更新は行いませんでした。

4. 海岸防災林への期待

今後も海岸防災林の保全を期待します。

5. 活動状況

看板設置



植栽作業の様子



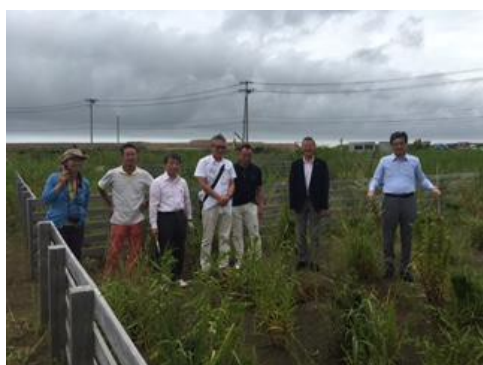
植栽初年度(集合写真)



植栽年後(平成 28 年)



現地視察(平成 29 年)



除草後写真(令和元年)

